

2005年に開催した「北海道遺産 旭橋フォーラム」には、旭川市民を中心に200名ほどの参加があった。フォーラムでは、道教育大学附属旭川小学校の児童2名が「全国こども橋サミット」の模様を報告し、「旭橋をこれからも大事にしたい」と思いを発表した。



旭橋を語る会

旭橋

世代を超えた結束 誰もが旭橋を愛する人

2005年9月に発足した『旭橋を語る会』は、旭橋に特別な思いを寄せる20代から80代までの人々がメンバーの世代を超えて集まった市民団体だ。

発足と同年の11月には、市民に愛されている旭橋をアピールしようと、「北海道遺産 旭橋フォーラム」を開催。ノンフィクション作家の合田道氏による講演会や「全国こども橋サミット」で旭橋について発表した小学生2名による報告会をはじめ、旭橋のイラストが描かれたレトロなマッチや包装紙など約1000点のアイテムが並ぶ、旭橋コレクション展なども行われた。

「当日、70通ほどのメッセージが会場の入口に掲示されました。これは、都合がつかず、フォーラムに来られなかった方々からの思いもよ

らぬ贈りもの。メッセージはどれも、旭橋への思いが綴られたものでした」と話すのは、『語る会』のメンバー！

海老子川（えびしがわ）雄介氏。今後も、旭橋にまつわる写真展やパネル展などを継続して行い、旭橋の魅力を発信していきたいと意欲を燃やす。

まちの元気へとつながる 架け橋役を買って出る

06年3月、「北海道遺産 旭橋フォーラム」が再び開催された。主催はもちろん『旭橋を語る会』、そして北海道開発局旭川開発建設部。

橋を生かしたまちおこしに取組んでいる室蘭の市民団体「白鳥大橋ハッピープロジェクト」に参加を呼びかけ、まちおこしのための橋談義やパネルディスカッションを行った。

『語る会』は、釧路の幣舞橋や

札幌の豊平橋などの関係者にも呼びかけ、将来、「北海道橋サミット」を開催する考えだ。

まちの、北海道の宝物 旭橋の真価とは

「旭川の橋」（旭川振興公社刊）の著者でもある『旭橋を語る会』の代表・関根正次氏は、「昭和7年の完成当時から変わらぬ姿の旭橋は、構造面も優れていますが、それ以上に、市民一人ひとりが、橋に対して家族のような愛着心を持っているのが何よりの価値」と話す。そして、「旭橋を思う人であれば、『語る会』への参加は大歓迎。いつか、旭川に住むすべての人が、思い思いに旭橋について語る。そんなイベントを開催したいです」と未来を見つめた。